

陸前高田市立気仙小学校

2014年 12月 16日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 「saveMLAK」博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報 <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- (2) 「陸前高田市東日本大震災検証報告書:資料編」陸前高田市
<http://www.city.nikuzentakata.iwate.jp/kategorie/bousai-syoubou/shinsai/shiryou.pdf>

【場所】

広田湾から約800m、気仙川から約300mの位置にある。

住所:岩手県陸前高田市気仙町愛宕下64

※現在は長部小学校と統合し旧長部小学校校舎で再開。

【東日本大震災による被害】

津波により校舎は全壊。(1)

※校舎は取り壊されている。



【震災当日の様子】

1年生から3年生は「帰りの会」の実施中、4年生から6年生は5時間目の授業が終了した時に地震が発生した。地震の揺れがおさまるのを待って、教務主任や担任以外の教職員が教室を回り「避難します。外に出てください。気をつけて階段を降りてください」と担任に指示した。14時55分頃に児童に防寒着を着させて外へ避難した。校庭では市民の多くが車で避難してきたため、独自に設定した第一避難所のバックネット付近ではなく鉄棒付近に避難し、整列させて点呼をとった。15時15分頃に「堤防を越えた」と絶叫する声を聞いて、津波が堤防を越えたことを確認した。教職員の指示で、駆け足で裏山である「わんぱく山」へ避難を開始した。「わんぱく山」へ通じる階段まで間に合わない児童は、多方向から一斉に山を駆け上った。抱えられる児童、高校生に手を引っ張られる児童もいた。途中で足がすくんでいる児童は押し上げるなどして、児童と教職員の全員が「わんぱく山」へ避難した。山を登っている時に、校庭が水没した。「わんぱく山」に避難後、林道を通り二日市の民家に一時的に避難した。その後、低学年は消防車両で長圓寺へ、高学年は月山神社へ向かった。3月11日の夜は長圓寺、月山神社に分かれて宿泊した。少ない布団や毛布に皆でくまって寝た。翌3月12日に迎えに来た保護者などと共に、水産加工場のバスで長部小学校へ移動し、児童の健康管理、所在把握と名簿作成を始めた。全ての児童の引渡しが完了したのは6日後であった。(2)

【調査して言えること】

学校の標高は5mほどで、海から約800m、気仙川から約300mの場所にあり、津波を想定した迅速な避難が必要な学校である。

二次避難をした「わんぱく山」は、校舎のすぐ西隣に50mも離れていない場所で、標高は約10mである。標高は学校の敷地よりも高いが、海からの距離も学校とほとんど変わらないため、津波の際に留まって避難することは難しい場所である。次に避難した二日市の民家がある場所は、学校から南方に700mほど離れた場所にあり、標高は70m以上ある安全な場所である。

学校のすぐ近くに山があるため学校外への避難がしやすい学校である。



東から見た学校のあった場所(2014/3/17撮影)

※鉄塔の後ろの瓦礫が積んである場所に校舎があった。



避難した山(2014/3/17撮影)

※見えにくいですが校舎のあった場所と山の間がわんぱく山だった。